

【解答への手引き（テーマ説明文）】

今回の話題は、AI時代の到来を予感させる、法務分野での技術革新についてです。これまで弁護士など専門知識を持った人間が一言一句チェックしていた契約書等の書類が、AIの活用によって最短1秒で内容確認が済んでしまうというのですから驚きです。多くの専門知識が必要な法務分野においてさえも機械が人間にとって代わろうとする時代です。この先10年、20年後には、今当たり前の職業が過去の遺物と化しているかもしれません。

英文は語注に挙げられた専門用語等を除けば、比較的読みやすい文章です。下線部が何を指しているのかを記述式で答える設問を用意しましたので、内容把握力と表現力の腕試しをしてみましょう。

【解答】

問1 (A) イ (B) イ (C) エ (D) イ (E) イ

問2 第3番目: over 第5番目: it

問3 AIを活用することでこうした書類チェックや準備などのような業務に必要な時間を3分の1程度に短縮できる。

問4 人工知能が高い確率で裁判所の判決を予測する技術（が開発されている。）

問5 ウ

問6 イ, ウ

【設問解説】

問1 空所補充問題。文脈に合わせて、空所に適した語句を選択する問題です。

- (A) 正解はイです。for oneself で「独力で、自分で」の意味の定番の熟語です。by oneself でも同様の意味を表します。よって、go into business for himself 「会社を辞めて独立する」という意味になります。
- (B) 正解はイです。...as well as～は「...と同様に～も」の意味。The service が AI を使って check する内容の具体例が後続していることを踏まえて考えます。アの also known as～は「～として知られる」、ウの excluding～は「～を除いて」、エの in contrast with～は「～に対比して」で、いずれも文脈に合いません。
- (C) 正解はエです。on a trial basis で「試験的に」の意味。アは on a daily basis の形であれば「毎日」の意味を表しますが、この形のままでは意味を成しません。その他の選択肢はどれも文脈に合わず不適切です。
- (D) 正解はイです。conversation は「会話」の意味の名詞で、自然言語処理は人々の daily conversation 「日常会話」の言葉を用いて行われることが述べられています。

(E) 正解はイです。この文の S は **companies' legal affairs departments and the lawyers in charge** 「企業の法務部門と担当弁護士」、usually は「たいてい」の意味の副詞で busy が C となる第 2 文型の構造です。彼らが「極端に忙しい」という意味を表すためには、extremely 「極端に」の副詞を用いる必要があります。rarely は「めったに～ない」の意味となり、文脈的に正反対となってしまいます。

問2 英文整序問題。正しく並べ替えた英文は、**(the service is) drawing attention over whether it can help (streamline corporate legal practices)**です。語群より、drawing attention 「注目を集めている」、whether S+V 「S が V かどうか」などのかたまりが見えてきます。また、文の後半にある streamline は見慣れない単語ですが、この品詞を特定できるかどうかは並べ替えに大きく関わってきます。streamline は名詞または形容詞だと「流線形(の)」を意味しますが、ここでは動詞として用いられており、「(仕事など)を能率化する」の意味となります。そこに気づけば、**can help streamline corporate legal practices** 「企業法務の効率化を助けることができる」というふうに help が原形不定詞をとる構文が作れます。以上をまとめると、下線部は「コンプライアンス(法令遵守)の強化が求められる中、このサービスが企業法務の効率化につながるかが注目されている」の意味を表します。

問3 下線部和訳問題。ポイントは大きく3点あります。1点目は、S **make it possible to do** の構文。「S が～することを可能にする」、すなわち「S によって～できる(ようになる)」の意味の無生物主語構文です。S が無生物であることから、和訳の仕方に少し工夫が必要です。2点目は shorten A to B の形で「A を B へと短縮させる」の形がつかめるかどうかです。これが見えてくると、文全体の構造がつかみやすくなります。そして3点目は **one third the usual time** 「通常の時間の3分の1」。これは比較構文の応用形で分数表現を用いて数量の比較を行い、表現しています。以上から、「AI を活用することでこうした書類チェックや準備などのような業務に必要な時間を3分の1程度に短縮できる」といった和訳が完成します。

問4 文内容把握問題。下線部を見ると、構文は現在完了形の受け身で不定詞の副詞的用法が含まれている、比較的易しい形です。最初の **technology** がこの文で話題になっている AI 技術のことを指し、predict が「予測する、予知する」の意味で、**court ruling** が「裁判所の判決」、**high probability** で「高い確率」を意味することが分かれば、大意はつかめます。すなわち、「AI の技術が高い確率で裁判所の判決を予測するほどまでに発達してきた」といった内容が読み取れます。解答は文字数制限や文末指定を考慮し、「人工知能が高い確率で裁判所の判決を予測する技術(が開発されている。)」などとまとめられていれば合格です。

問5 文内容把握問題。正解はウです。直前の下線部(3)で、AIの性能が着実に上がってきていることが分かります。そのうえで、「パラリーガル（弁護士補助員）」は **vanishing profession** であると述べられます。直後にこの点について説明があり、**that could be replaced with AI and robots in the future** 「将来的にはAIやロボットに取って代わられる」の意味の関係詞節が続きます。したがって、ウの「将来的には存在しなくなる職業」が最適です。

問6 内容一致問題。各選択肢の文内容を正しく捉え、本文中のどこに言及があるのかを確かめながら適切な答えを選ぶ問題です。

- (ア) 誤り：本文第1パラグラフ参照。「最短1分」ではなく、正しくは「1秒」です。
- (イ) 正解：本文第4パラグラフ参照。依頼者にとって不利益となる条項がないかどうかのチェックも行う、と述べられています。
- (ウ) 正解：本文第9パラグラフ参照。従来、専門的知識を持った人しか書類のチェックができなかったため、担当者は多忙を極めた、と述べられています。
- (エ) 誤り：本文第10パラグラフ参照。正しくは「労働集約型の働き方から脱することができるようになる」です。
- (オ) 誤り：本文第11パラグラフ参照。正しくは「パラリーガル」ではなく「リーガルテック」。また、関連市場は1兆8000億円と書かれています。